

支援だより



平成29年度 第8号
平成29年12月18日
神奈川県立中原養護学校
支援連携グループ

学部紹介 ～高等部B部門～

高等部B部門には、1年生27名、2年生27名、3年生18名の計72名の生徒が在籍しています。今回は、高等部B部門で行っている支援について、大きく3つに分けてお伝えしたいと思います♪

①日々の生活における支援

高等部B部門には、さまざまな生徒が集まっており、一人ひとり持っている強みや課題もそれぞれです。たとえば、姿勢や歩行の安定、健康・体力の維持増進、手先の巧緻性の向上といった身体的なことや、自己選択・自己決定の力・自己肯定感の育成といった精神的なこと、自己の表出や周囲の人との協調性といったコミュニケーションに関すること…と、多岐にわたります。そのため、個に応じた目標を立てて、日々の活動に取り組んでいます。生徒は目標を一つひとつ積み重ね、学び、日々成長しています。その実現に向けた適切な支援を行うことができるよう、高等部B部門では生徒との会話や活動における小さな変化や発言を見落とさないようにしています。

②地域とのつながりを目指した支援

日ごろの学習から、地域とのつながりを意識した活動を取り入れています。地域の施設や病院へ訪問し、清掃や人のかかわりを楽しんだり、近隣のスーパーに買い物に行ったり、生徒が実際に余暇で利用できる施設で活動したりと、どれも身近な地域での活動です。これらを通して、「地域の中で生活する」ことへの具体的なイメージを持てるようになってほしいと願っています。

私たちが理想とするのは、一人で悩みを抱え込むのではなく、本人を取り巻く周囲、地域を巻き込んだ支援の形です。その支援体制を整えるため、必要に応じて医療や福祉をはじめとするさまざまな機関とつながりを持てるよう、はたらきかけています。

③卒業後へ向けた支援

高等部B部門では、週に1回「作業学習」を設けています。作業班は「陶芸班」「クラフト班」「クリーニング班」「環境班」「手工芸班」「チェアメンテナンス班」「事務サービス班」の7つがあり、1年生から3年生が学年を越えて各班に所属しています。この学習では、卒業後に向けて「仕事をする」ことへの意識を持つことや、基本的なマナーを身に付けることを目指しています。

さらに、「校内実習」や「一日職業体験」、そして卒業後の進路を見据えた「実習」を3年間を通して行い、卒業後へ向けてだんだんと力をつけていくことができるようにしています。

高等部B部門では、生徒のだれもが「自分らしく」生きていけるような支援を、こころがけています。

校内外支援係より ～ICT 支援～

支援技術に関する概念の整理

～ICT、IT?AT、AAT?ソフトウェアとハードウェア?～

ICT 支援係 本間 眞理

今年度から ICT 支援係になり、「学校中で ICT の活用を広めよう!」と考えるようになりました。そのため、「まずは私が実践せねば」と思い iPad をいろいろ触ってみたものの、どんな場面で使えばいいんだろうと頭を悩ませるだけでなかなか実践には至りませんでした。やはり活用する場面と子どもの実態像がしっかりつかめていないと、どんなに便利な機器やアプリも効果的に使えなくなってしまいます。そこでここでは、支援技術に関する用語や考え方を紹介し、どんな場面で ICT を活用していくべきか考えていきたいと思います。もちろんご存知の方も多いとは思いますが、ICT の活用を考える際の一助となればと考え、ご一読いただければと思います。

○ICTについて

ICTとは「Information and Communication Technology」のことで、一般には「情報通信技術」と訳されますが、文科省の資料ではよく「情報コミュニケーション技術」と訳されます。類似した概念にIT (Information Technology: 情報技術)があり、混同されがちですが、ICTのほうがよりコミュニケーション面での活用を重視した考え方で、近年ではこちらが定着しつつあるようです。ICTは画像や動画、アプリのようなソフトウェアとPC、カメラ電子黒板のようなハードウェアの両方を含む広い概念です。例えば iPad の端末自体はハードウェアですが、使用するアプリはソフトウェアになります。

○ATとAAC

ATやAACという言葉もよく耳にするかと思います。ATとは「Assistive Technology (支援技術)」で日常生活場面での支援、AACは「Augmentative Alternative Communication (拡大代替コミュニケーション)」で、話す・聞く・読む・書くなどのコミュニケーションに困難のある人が、持っている力を活かして考えや気持ちを相手に伝えるための支援のことです。これらの考え方は、その人に最も合った支援方法であれば、視線ボードや文字盤のような支援具もVOCAなどの機器も両方含み、区別しません。私は、iPadはATとAAC両方の機能を持っていると考えています。例えば、視力の弱さを補うため、見たいものをカメラで撮影し拡大して見るといった使い方はATですし、発声の代替手段として読み上げソフトで相手に伝えるという使い方は、AACではないでしょうか。

○おわりに

子どもの困り感がどのような場面にあるか、子どもの持っている力で活かせる場所は何か、といったことを整理した上で、iPadのアプリを選択していくことが大切だと考えます。もちろん、ハンドサインや瞬きなどテクノロジーに頼らない方法も立派なAACですから、目的や用途に合わせて支援具や機器を使い分けることが大切でしょう。iPadを使いたいがために、もっと子どもに合った方法を見失わないように気をつけなければなりません。iPadは多機能で持ち運びしやすく、子どもも興味をもちやすい機器です。本校では、効果的なiPadの効果的な活用をこれからも研究しつつ、児童生徒の皆さんの学習に役立てていきたいと思います。



お知らせ

なかよう作品展～in 東洋モータース

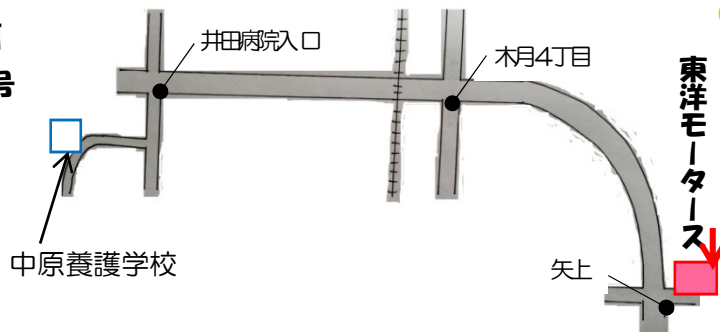
東洋モータース川崎店に展示している作品が変わりました！今回は秋祭期間中に階段側面を華やかにしてくれた、分教室1年生のダイナミックな作品です。迫力のある待合室となりました。はにっぴーバージョンはまた今度掲示したいと思います。

お近くへお越しの際は、ぜひ見に行ってみてください。



場所：東洋モータース川崎店
川崎市幸区矢上 15 番 2 号

尻手黒川線（県道 14 号）を
川崎方面へ向かって左側、
矢上の信号の手前



支援だよりへのご感想、ご質問は、Eメール（nakahara01-sh@pen-kanagawa.ed.jp）または、
中原養護学校ホームページ（<http://www.nakahara-sh.pen-kanagawa.ed.jp/>）まで！